

『西天仏説八万大蔵経目録』について

—『西遊記』から素材を得た朝鮮伝承偽経—

専修大学ネットワーク情報学部兼任講師

佐藤 厚

一 問題の所在

偽経とは仏教経典の中、インド以外で成立した経典のことをいう。中には教理的に高度なものもあるが、多くは現世利益を目的とする。そのために内容も、利益を増大させるために仏名を繰り返したりするなど、工夫をこらしている。

本稿で取り上げる『西天仏説八万大蔵経目録』（以下本書）は現在、朝鮮半島にだけ伝承するものであるが、めずらしい特徴がある。それは列挙された経典の名前を「見るだけで」大蔵経を読んだ功德があるという。経典の名前や仏の名前を「唱える」功德はよくあるが、これは「見るだけ」であり、易行もここに極まれりといった感のものである。その経典も、本物の経典名もあればいかにも偽作という経典名もある。

さらに筆者の興味を引いたのは、經典名を挙げる時、「涅槃經一部。(四千八百卷の内、四十二卷、在唐。)」という書き方である。『涅槃經』は実際に存在する經典であるが、中国に存在するのは三六卷または四十卷である。ところでこれが本来は四八〇〇卷という膨大な数があった！というのである。もちろんこれは創作で、インドにあつた經典のごく一部しか翻訳されていない、ということである。經典の神秘性を高めるための仕掛けと考えられる。

筆者は当初これを朝鮮撰述の經典と考えたが、調べているうち、それがあの有名な『西遊記』から素材を取つたこと、さらにこの經典と似たものが中国で流通していたらしいことを知つた。ここでは、考察の過程と結果を報告する。本文獻についての先行研究は、簡単な解題を除いては管見では見つけられていない。¹⁾

二 テキスト

本書は、単独で流行するものではなく、祈祷用の經典類の一つとして存在している。

年代が最も古いのは奎章閣所蔵本で、題目は「西天仏説八万大藏經目錄」。編著者は釈沃印。刊行年度は1792年。巻数は一冊二張。木版本とある。

一八六一年刊行本は慶尙道の磧川寺で刊行され、『天地八陽神呪經』と一緒に収録されている。このほか一八八二年に刊行した井幸編『仏家日用集』に収録されるものがある。これには内容が同じで『僧家日用食時默言作法』という題目のものもある。

蔵書閣には年度は明確ではないが、『要集文』という名称で、「觀世音菩薩靈驗略抄」、「仏説明堂經」などの附録として、印度史、支那史、朝鮮史とともに西天仏説八万大藏經目錄が収録される。印度史、支那史、朝鮮史とともに

にあることから、これは近代になり編纂されたものと考えられる。

三 内容

続いて奎章閣所蔵本（一八八二年刊行『日用集』所収本）をもとに内容を紹介する。

まず書き下しを示す。便宜上、(A) から (H) までの符号を記す。またカッコ内は割注である。

- (A) 西天仏説八万大藏経目録
- (B) 涅槃経一部。(四千八百卷の内、四十二卷、在唐。) 菩薩経一部(二千二百卷の内、三十六卷、在唐) 虚空蔵経一部(一百十卷の内、十卷、在唐) 思議蔵経一部(五十卷の内、四卷、在唐) 首楞嚴経一部(一百十卷の内、十卷、在唐) 決定経一部(二百四十卷内、四卷、在唐) 宝蔵経一部(二百四十五卷の内、二卷、在唐) 華嚴経一部(二万三千卷内、八十一卷、在唐) 李真経一部(九十卷の内、三卷、在唐) 大般若経一部(一千六百卷の内、六百卷、在唐) 金光明経一部(二十卷の内、十卷、在唐) 未曾有経(一千五百卷の内、五十卷、在唐) 維摩経一部(二百七十卷の内、三卷、在唐) 三論別経一部(二百七十卷の内、十二卷、在唐) 金剛経一部(二百卷の内、一卷、在唐) 正法論経一部(二百二十卷の内、二卷、在唐) 法華経一部(一百卷の内、七卷、在唐) 仏本行経一部(二千八百卷の内、十六卷、在唐) 五龍経一部(三十二卷の内、二卷、在唐) 菩薩戒経一部(二百六十卷の内、内十卷。在唐)。大集経一部(二千三百卷の内、三卷。在唐)。西天論経(三百三十卷の内、三卷。在唐)。僧祇経一部(五百七十卷の内、十卷。在唐)。西天仏国雑経(九千三百卷の内、三十卷。

在唐)。起信論經一部(二千卷内、五十卷。在唐)。大智度論經一部(二百八十卷内、十卷。在唐)。雜寶藏經一部(四千五百十卷の内、一百四十卷。在唐)。大開經一部(八百五十卷の内、二十卷。在唐)。正律文經(二千卷内、十卷。在唐)。因明論經一部(二千二百卷の内、五十卷。在唐)。唯識論經一部(二百卷内、十卷。在唐)。具舍論經一部(二千卷の内、十二卷。在唐)。

(C) 四十二章經。遺教經。弥陀經。円覺經。梵網經。地藏經。十王經。目連經。高王經。百緣經。月藏經。

(D) 西天大藏經は摠計四億八万四百卷の内(三千八百二十二卷、譯して唐に在り)。

(E) 唐僧、西天に往きて取り來る。(此の目録、若し人、一たび看れば、大藏經一件を見るが如し。功德無量、諸仏護佑にして、世生生、常に男子の身を得。毎日、常に誦して頂礼すれば福寿無彊にして災害は自から消す。又た、若し男子、女人有りて、臨命終時、此の經の目録を袖書して布帛に入れ、胸に当て背に歸すれば、則ち地府の冥司たる閻羅王、合掌頂礼して云はく、「此の人、罪を免かれ指して西方弥陀仏の所に送る」と。頌して云く、)

(F) 「此の經に靈驗無しと道ふこと莫かれ。帯ぶる者、命終して西方に往く。」と。

(G) 中夏より西天国に至るに九万八千里なり。西天の僧寺は、三百四十万九千三百三十所なり。尼寺は二十五万八千所なり。道觀は一百五万三千三百三所なり。館譯は一百三十万九千三百十所なり。舍利塔名。南京開宝塔。金陵長安塔。沙州白馬塔。凉州姑洗塔。甘州万華塔。魏州臨黃塔。阿育王の所にて八万四千塔を造る。

(H) 大藏目録自り宝塔に至る。板本は本と平安道妙香山院庵に在り。而して今、重刊するなり。

以下、内容について解説する。

(A) は題目である。

(B) では三二種の經典名、本来の卷数、在唐の卷数を挙げる。

(C) では(B)とは異なり、卷数は挙げずに一一種の經典名を挙げる。

(D) は西天大藏経の卷数が四億八万四百卷であり、その中、三八二二卷が翻訳されて唐にあることが説かれる。

(E) では、唐僧、西天に往きて取り来る。と述べた後、次の三つの方法と利益が説かれる。

第一に、目録をひとたび見ると大藏経を読んだのと同じ功德があること。

第二に、毎日読誦すると災害がおのずから消失すること。

第三に、臨終の時にこの目録を遺体の服に入れておくと、閻魔王が西方浄土に送ってくれること。

(F) では「此の経に靈驗無しと道ふこと莫かれ。帯ぶる者、命終して西方に往く。」と説く。

(G) では中国から西天国までの距離、寺院数、塔の名前を説く。

(H) では刊行に関する情報であり、板本が本来平安道妙香山上院庵にあったことを説く。

四 經典について

ここでは列挙される經典について考えてみたい。まず表にまとめると〈表1〉のようになる。

この中、まず卷数が列挙される32種の經典名について検討する。

この中には現実に存在する經典と架空經典とが混じっている。架空經典と考えられるものは、④思議藏経、⑨李

真経、⑭三論別経、⑰五竜経、⑳西天論経、㉑僧祇経、㉒西天仏国雜経、㉓起信論経、㉔大智度論経、㉕大開経、

〈表1〉『西天仏説八万大蔵経目録』に説かれる經典

	經典名	本来数	在唐数
1	涅槃經	4800	42
2	菩薩經	2200	36
3	虚空藏經	110	10
4	思議藏經*	50	4
5	首楞嚴經	110	10
6	決定經	140	4
7	宝藏經	145	2
8	華嚴經	23000	81
9	李真經*	90	3
10	大般若經	1600	600
11	金光明經	20	10
12	未曾有經	1500	50
13	維摩經	170	3
14	三論別經*	270	12
15	金剛經	100	1
16	正法輪經	220	2
17	法華經	100	7
18	仏本行經	1800	16
19	五竜經*	32	2
20	菩薩戒經	160	10
21	大集經	1300	3
22	西天論經*	330	3
23	僧祇經*	570	10
24	西天仏国雜經*	9300	30
25	起信論經*	2000	50

26	大智度論經*	280	10
27	維宝藏經	4510	140
28	大開經*	850	20
29	正律文經*	2000	10
30	因明論經*	2200	50
31	唯識論經*	100	10
32	具舍論經*	2000	12
		62057	1253
33	四十二章經		
34	遺教經		
35	弥陀經		
36	円覚經		
37	梵網經		
38	地藏經		
39	十王經		
40	目蓮經		
41	高王經		
42	百録經		
43	月藏經		
	西天大蔵經	400080400	3822

經典名の次に*が付いているものは実在しない經典

⑲ 正律文経、⑳ 因明論経、㉑ 唯識論経、㉒ 具舍論経である。この中、㉓ 三論別経、㉔ 起信論経、㉕ 大智度論経、㉖ 因明論経、㉗ 唯識論経、㉘ 具舍論経は、論にむりやり経をつけた感じがするものであり、㉙ 李真経、㉚ 五竜経は道教の雰囲気がある。これら架空經典の列挙から、筆者は当初、本経と同様に架空經典を多数列挙する、中国あるいは新羅で説かれたと考えられている『釈摩訶衍論』との関連を予想し、この經典が『釈摩訶衍論』の謎を解くヒントになるのではないかと考えたが、後述するように、これは『西遊記』との関連であった。

続いて巻数について考えてみたい。例えば、

『涅槃経』 一部四八〇〇巻、四二二巻在唐

という書き方は、本来の涅槃経は四千八百巻もあるのに、実際にはごく一部しか伝わっていない、ということ进行う。これは經典自体の神秘化の作用があると考えられる。

続いてこの表の⑳から㉚までの11の經典の位置づけである。これらは同じ經典なのに、どうして最初の32とは別建てにされているのか。また巻数が書かれていないのか。現段階では不明である。

五 成立について

(一) 『西遊記』収録の經典群

經典群の背後にあるものは何か。調べてみると原材料は『西遊記』であることがわかった。

『西遊記』の第九十八回「猿熟馬馴方脱殻、功成行満見真如」では、凌雲渡を渡り、靈山に登り、釈迦如来と対面した三蔵法師一行が經典を受け取ることが説かれる。ついに天竺の如来のもとに達した三蔵法師一行が、如来のもてなしを受けた後、いよいよ經典を受け取るという段。阿難と迦葉が三蔵を案内して經典をさしあげるといふ。そのとき、こともあろうか阿難と迦葉は三蔵に賄賂を要求する。やんわりと断る三蔵であったが、これを聞くと二人はなかなか經典を渡そうとしない。業をにやした悟空が如来の下で話をつけると言い出すと、二人はようやく經典を渡す。

問題はそこで列挙された經典である。それは三十五種の經典で、巻数が書いてある。これを『西天仏説』と対比させると（図1）のようになる。

両者は大まかには似ているが細かな違いも見いだせる。經典名からいえば、①から③までは共通しているが、④と⑤が入れ替わっている。また『西遊記』⑤『思意経大集』は『西天仏説』④「思議蔵経」の誤記らしい（点線で示したのはこの意味）。このようにいくつかのずれがある。

『西遊記』が合計三十五種、『西天仏説』が合計三十二種であるから、『西遊記』にあつて『西天仏説』にないものが3種あるはずである。それは²³『瑜伽経』、²⁴『法常経』、³³『大孔雀経』である。こうした違いはあるが、両者が似ていることは明らかである。ここから本書が『西遊記』から素材をとったことは確実であろう。ここから最初に筆者は、本書の原材料は中国の小説『西遊記』で、これを素材として朝鮮で編纂されたのが『西天仏説八万大蔵経』であると推測した。

だが、調べてみると、一六世紀の中国明代の人物で『西天経』について述べている人がいることがわかり、この仮説を修正しなければならなくなった。

『西遊記』		『西天仏説大藏経目録』
①『涅槃経』一部(748巻)		①『涅槃経』(4800巻内、42巻在唐)
②『菩薩経』一部(1021巻)		②『菩薩経』(2200巻内、36巻在唐)
③『虚空蔵経』一部(400巻)		③『虚空蔵経』(110巻内、10巻在唐)
④『首楞嚴経』一部(110巻)		④『思議蔵経』(50巻内、4巻在唐)
⑤『恩意経大集』一部(50巻)		⑤『首楞嚴経』(110巻内、10巻在唐)
⑥『決定経』一部(140巻)		⑥『決定経』(140巻内、4巻在唐)
⑦『宝蔵経』一部(45巻)		⑦『宝蔵経』(145巻内、2巻在唐)
⑧『華嚴経』一部(500巻)		⑧『華嚴経』(23000巻内、81巻在唐)
⑨『礼真如経』一部(90巻)		⑨『李真経』(90巻内、3巻在唐)
⑩『大般若経』一部(916巻)		⑩『大般若経』(1600巻内、600巻在唐)
⑪『光明経』一部(300巻)		⑪『金光明経』(20巻内、10巻在唐)
⑫『未曾有経』一部(1111巻)		⑫『未曾有経』(1500巻内、50巻在唐)
⑬『維摩経』一部(170巻)		⑬『維摩経』(170巻内、3巻在唐)
⑭『三論別経』一部(270巻)		⑭『三論別経』(270巻内、12巻在唐)
⑮『金剛経』一部(100巻)		⑮『金剛経』(100巻内、1巻在唐)
⑯『正法論経』一部(120巻)		⑯『正法輪経』(220巻内、2巻在唐)
⑰『仏本行経』一部(800巻)		⑰『法華経』(100巻内、7巻在唐)
⑱『五龍経』一部(32巻)		⑱『仏本行経』(1800巻内、16巻在唐)
⑲『菩薩戒経』一部(116巻)		⑲『五竜経』(32巻内、2巻在唐)
⑳『大集経』一部(130巻)		⑳『菩薩戒経』(160巻内、10巻在唐)
㉑『摩竭経』一部(350巻)		㉑『大集経』(1300巻内、3巻在唐)
㉒『法華経』一部(100巻)		㉒『西天論経』(330巻内、3巻在唐)
㉓『瑜伽経』一部(100巻)		㉓『僧祇経』(570巻内、10巻在唐)
㉔『宝常経』一部(220巻)		㉔『西天仏国雜経』(9300巻内、30巻在唐)
㉕『西天論経』一部(130巻)		㉕『起信論経』(2000巻内、50巻在唐)
㉖『僧祇経』一部(157巻)		㉖『大智度論経』(280巻内、10巻在唐)
㉗『仏国雜経』一部(1950巻)		㉗『雜宝蔵経』(4510巻内、140巻在唐)
㉘『起信論経』一部(1000巻)		㉘『大開経』(850巻内、20巻在唐)
㉙『大智度経』一部(1080巻)		㉙『正律文経』(2000巻内、10巻在唐)
㉚『宝威経』一部(1280巻)		㉚『因明論経』(2200巻内、50巻在唐)
㉛『本闍経』一部(850巻)		㉛『唯識論経』(100巻内、10巻在唐)
㉜『正律文経』一部(200巻)		㉜『具舍論経』(2000巻内、12巻在唐)
㉝『大孔雀経』一部(220巻)		
㉞『維摩論経』一部(100巻)		
㉟『具舍論経』一部(200巻)		

図1 『西遊記』と『西天仏説大藏経目録』との經典名比較

(二) 胡応麟の言及

胡応麟（一五五一年—一六〇二年）は中国明代の学者で、字は元瑞または明瑞。少室山人、時羊生と号する。南京の官であつた胡僖の子として蘭谿（現在の浙江省金華市蘭谿市）に生まれる。幼少より詩を善く書き、万曆四年（一五七六年）に挙人となる。ただし万曆二十一年、二十四年、二十七年の会試に及第せず、ついに官に登用されることなく、山中に居住し読書にふけり、貧しいながらも書物を収集し四万冊に及ぶ。学問の範囲は經史子集にわたり、儒家・仏教・道教に至るまでになつた。編纂書・著作が非常に多い。（ウイキペディアより）

彼の『少室山房筆叢』正集三六卷・続集一六卷の中に、『西遊記』の經典群に関する記事がある。原文と現代語訳を並記すると次のようになる。

大藏經四千五十余卷、而諸家書目所載、僅百數十種。蓋唱偈疏懺等於文義、相違不得尽収也。然以西天經、較之、直百之一耳。因録此広異聞、不必論其有無。（大藏經には四千五十余卷あるというが、諸家の書目の所載は僅かに百数十種だけである。思うに唱偈、疏懺等は文義が相違するので尽く収めることができないのである。ところで『西天經』をもとに、総じて比較すると直ちに百の一にしかならない。よつてこの広異聞を記録する。必ずしもその有無は論じない。）

胡応麟が挙げる『西天經』をみると、朝鮮本のように在唐の巻数が付いている。わかりやすいように、丸カッコの番号を付して並べた。

- ① 『涅槃経』（四八〇〇巻内、四〇巻在唐）、② 『菩薩経』（二二〇〇巻内、三六巻在唐）、③ 『虚空藏経』（四〇〇巻内、二巻在唐）、④ 『首楞嚴経』（一一〇巻内、一〇巻在唐）、⑤ 『恩意経』（五〇巻内、四巻在唐）、⑥ 『決定経』（二四〇巻内、四巻在唐）、⑦ 『宝藏経』（二四〇巻内、二巻在唐）、⑧ 『華嚴経』（二三〇〇巻内、八一巻在唐）、⑨ 『李真経』（90巻内、3巻在唐）、⑩ 『大般若経』（一六〇〇巻内、六巻在唐）、⑪ 『金光明経』（二〇〇〇巻内、10巻在唐）、⑫ 『未曾有経』（一五〇〇巻内、五〇巻在唐）、⑬ 『維摩経』（二七〇巻内、三巻在唐）、⑭ 『三論別経』（二七〇巻内、一二巻在唐）、⑮ 『金剛経』（一〇〇〇巻内、一巻在唐）、⑯ 『正法輪経』（二二〇巻内、二巻在唐）、⑰ 『仏本行経』（一八〇〇巻内、六〇巻在唐）、⑱ 『五竜経』（三二巻内、二巻在唐）、⑲ 『菩薩戒経』（一一六巻内、一六巻在唐）、⑳ 『大集経』（二二〇〇巻内、三巻在唐）、㉑ 『摩竭経』（三三〇巻内、四〇巻在唐）、㉒ 『法華経』（一〇〇〇巻内、七巻在唐）㉓ 『瑜伽経』（二〇〇巻内、三巻在唐）㉔ 『宝常経』（二〇〇〇巻内、七〇巻在唐）㉕ 『西天論経』（三三〇〇巻内、三巻在唐）㉖ 『僧祇経』（五七〇巻内、一〇巻在唐）、㉗ 『西天仏国雑経』（九五〇〇巻内、三〇巻在唐）、㉘ 『起信論経』（二〇〇〇巻内、五〇巻在唐）、㉙ 『大智度経』（二八〇巻内、一〇巻在唐）、㉚ 『宝藏経』（四五二〇巻内、一四〇巻在唐）、㉛ 『本闍経』（八五〇巻内、二〇巻在唐）、㉜ 『正律文経』（二二〇〇巻内、一〇巻在唐）、㉝ 『因名論経』（二二〇〇巻内、五〇巻在唐）、㉞ 『唯識論経』（二〇〇巻内、一〇巻在唐）、㉟ 『具舍論経』（二二〇〇巻内、一〇巻在唐）、

これを『西遊記』、朝鮮伝承『西天経』と比較させると（図2）のようになる。

三者を対応させると、まず『西遊記』から胡応麟所引『西天経』への変化が見て取れる。『西遊記』の⑨『礼

『西遊記』	胡応麟所引『西天經』	朝鮮伝承『西天經』
①『涅槃經』一部 (748 卷)	①『涅槃經』(4800 卷内、40 卷在唐)	①『涅槃經』(4800 卷内、42 卷在唐)
②『菩薩經』一部 (1021 卷)	②『菩薩經』(2100 卷内、36 卷在唐)	②『菩薩經』(2200 卷内、36 卷在唐)
③『虚空藏經』一部 (400 卷)	③『虚空藏經』(400 卷内、2 卷在唐)	③『虚空藏經』(110 卷内、10 卷在唐)
④『首楞嚴經』一部 (110 卷)	④『首楞嚴經』(110 卷内、10 卷在唐)	④『思議藏經』(50 卷内、4 卷在唐)
⑤『恩意經大集』一部 (50 卷)	⑤『恩意經』(50 卷内、4 卷在唐)	⑤『首楞嚴經』(110 卷内、10 卷在唐)
⑥『決定經』一部 (140 卷)	⑥『決定經』(140 卷内、4 卷在唐)	⑥『決定經』(140 卷内、4 卷在唐)
⑦『宝藏經』一部 (45 卷)	⑦『宝藏經』(140 卷内、2 卷在唐)	⑦『宝藏經』(145 卷内、2 卷在唐)
⑧『華嚴經』一部 (500 卷)	⑧『華嚴經』(23000 卷内、81 卷在唐)	⑧『華嚴經』(23000 卷内、81 卷在唐)
⑨『礼真如經』一部 (90 卷)	⑨『李真經』(90 卷内、3 卷在唐)	⑨『李真經』(90 卷内、3 卷在唐)
⑩『大般若經』一部 (916 卷)	⑩『大般若經』(1600 卷内、6 卷在唐)	⑩『大般若經』(1600 卷内、600 卷在唐)
⑪『光明經』一部 (300 卷)	⑪『金光明經』(1000 卷内、10 卷在唐)	⑪『金光明經』(20 卷内、10 卷在唐)
⑫『未曾有經』一部 (1111 卷)	⑫『未曾有經』(1500 卷内、50 卷在唐)	⑫『未曾有經』(1500 卷内、50 卷在唐)
⑬『維摩經』一部 (170 卷)	⑬『維摩經』(170 卷内、3 卷在唐)	⑬『維摩經』(170 卷内、3 卷在唐)
⑭『三論別經』一部 (270 卷)	⑭『三論別經』(270 卷内、12 卷在唐)	⑭『三論別經』(270 卷内、12 卷在唐)
⑮『金剛經』一部 (100 卷)	⑮『金剛經』(100 卷内、1 卷在唐)	⑮『金剛經』(100 卷内、1 卷在唐)
⑯『正法輪經』一部 (120 卷)	⑯『正法輪經』(220 卷内、2 卷在唐)	⑯『正法輪經』(220 卷内、2 卷在唐)
⑰『仏本行經』一部 (800 卷)	⑰『仏本行經』(1800 卷内、60 卷在唐)	⑰『法華經』(100 卷内、7 卷在唐)
⑱『五龍經』一部 (32 卷)	⑱『五竜經』(32 卷内、2 卷在唐)	⑱『仏本行經』(1800 卷内、16 卷在唐)
⑲『菩薩戒經』一部 (116 卷)	⑲『菩薩戒經』(116 卷内、16 卷在唐)	⑲『五竜經』(32 卷内、2 卷在唐)
⑳『大集經』一部 (130 卷)	㉑『大集經』(1200 卷内、3 卷在唐)	㉑『菩薩戒經』(160 卷内、10 卷在唐)
㉒『摩竭經』一部 (350 卷)	㉒『摩竭經』(350 卷内、40 卷在唐)	㉒『大集經』(1300 卷内、3 卷在唐)
㉓『法華經』一部 (100 卷)	㉓『法華經』(100 卷内、7 卷在唐)	㉓『西天論經』(330 卷内、3 卷在唐)
㉔『瑜伽經』一部 (100 卷)	㉔『瑜伽經』(100 卷内、3 卷在唐)	㉔『僧祇經』(570 卷内、10 卷在唐)
㉕『宝常經』一部 (220 卷)	㉕『宝常經』(1000 卷内、70 卷在唐)	㉕『西天仏国雜經』(9300 卷内、30 卷在唐)
㉖『西天論經』一部 (130 卷)	㉖『西天論經』(3300 卷内、3 卷在唐)	㉖『起信論經』(2000 卷内、50 卷在唐)
㉗『僧祇經』一部 (157 卷)	㉗『僧祇經』(570 卷内、10 卷在唐)	㉗『大智度論經』(280 卷内、10 卷在唐)
㉘『仏国雜經』一部 (1950 卷)	㉘『西天仏国雜經』(9500 卷内、30 卷在唐)	㉘『維摩藏經』(4510 卷内、140 卷在唐)
㉙『起信論經』一部 (1000 卷)	㉙『起信論經』(2000 卷内、50 卷在唐)	㉙『大開經』(850 卷内、20 卷在唐)
㉚『大智度經』一部 (1080 卷)	㉚『大智度經』(180 卷内、10 卷在唐)	㉚『正律文經』(2000 卷内、10 卷在唐)
㉛『宝威經』一部 (1280 卷)	㉛『宝藏經』(4520 卷内、140 卷在唐)	㉛『因明論經』(2200 卷内、50 卷在唐)
㉜『本闍經』一部 (850 卷)	㉜『本闍經』(850 卷内、20 卷在唐)	㉜『唯識論經』(100 卷内、10 卷在唐)
㉝『正律文經』一部 (200 卷)	㉝『正律文經』(2000 卷内、10 卷在唐)	㉝『具舍論經』(2000 卷内、12 卷在唐)
㉞『大孔雀經』一部 (220 卷)	㉞『因名論經』(2200 卷内、50 卷在唐)	
㉟『唯識論經』一部 (100 卷)	㉟『唯識論經』(100 卷内、10 卷在唐)	
㊱『具舍論經』一部 (200 卷)	㊱『具舍論經』(2000 卷内、10 卷在唐)	

図2 『西遊記』と胡応麟所引『西天經』『西天仏説八万大藏經目錄』との比較

真如経』が⑨『李真経』に、⑲『仏国雑経』が⑲『西天仏国雑経』に、⑳『宝威経』が⑳『宝蔵経』に、㉓『大孔雀経』が㉓『因名論経』に、㉔『織識論経』が㉔『唯識論経』に変化している。

ここから『西遊記』と現行の『西天仏説八万大蔵経目録』の間に、一六世紀に存在した『西天経』を想定する必要が出てきた。ここから本書は、中国で原形が成立し、それが朝鮮に入り伝承されたものであることが考えられた。ただ、そのまま伝えられたのか変更されたのかまではわからない。少なくとも、題目にある「八万大蔵経」は、高麗大蔵経の別称であるから朝鮮でつけられたものであることは推測される。とりあえず現在までの考察でわかる結果は、

『西遊記』第九八回の中の回の經典列挙（一六世紀ころ）



『西遊記』を基礎として經典の在唐卷数を入れた『西天経』が中国で成立（一六世紀後半）



題目に高麗大蔵経を受けた「八万大蔵経」を入れた『西天仏説八万大蔵経目録』が朝鮮で成立（下限は一八世紀後半）

となる。

六 朝鮮における『西遊記』の受容

続いて朝鮮における『西遊記』受容について先学の研究成果をもとに一瞥する。これは本書が『西遊記』を受けているとして、伝承された朝鮮において『西遊記』がどれくらい受容されていたのかが流行の際のポイントになると考えられるからである。

(一) 朝鮮における『西遊記』

磯部彰『旅行く孫悟空―東アジアの西遊記』によれば、朝鮮における『西遊記』受容の最初は16世紀に成立した崔世珍『朴通事諺解』であり、これは中国語学習書であるがこの中に元代の「元本西遊記」が引用されるという。同時期、朝鮮では明の四大奇書である『三国志通俗演義』、『水滸伝』、『金瓶梅』、そして『西遊記』が入っていたという。一七世紀半ばにはこれを資料的に追うことができるという。よって『西天仏説』が導入されたとしても、それを見た人々は、それが『西遊記』に基づくものとわかったと考えられる。

(二) 寺院殿閣に描かれた西遊記図像

続いて同じく朝鮮における『西遊記』流行について、寺院に描かれた図像をもとに考えてみる。チェ・ペクは『朝鮮後期寺院殿閣に見える西遊記図像研究』（東亜大学校修士論文、二〇二一年）で、一九世紀に寺院の建物の壁画などに描かれた西遊記図像について研究している。研究の要約を示すと次のようになる。

仏教界は壬辰倭乱と丙子胡乱などで被った被害を回復しようとし、民間階層で流行した主題を仏教絵画として描き、彼らの関心と後援を受けようとした。したがって、『西遊記』の場面や人物などが壁画と仏画から確認される。壁画の場合、一八世紀嶺南地域を中心に計一点一点が現存し、「神衆図」と「三蔵菩薩図」には「西遊記」の登場人物であり、中国の文臣である尉遲敬徳と陳叔宝、魏徴が神衆として登場する事例が四〇点確認される。

西遊記壁画は通度寺龍華殿をはじめ、仏国寺大雄殿、龍淵寺極楽殿、双溪寺大雄殿に描かれた。通度寺と仏国寺、龍淵寺の場合、明代刊行された『李卓悟先生批評西遊記』の挿絵を参照して描いたが、変容が起きた。例えば、壁画の話題を小説回の原題と異なって書いたり、孫悟空が猿ではなく童子の姿で描かれるなどの様相が見える。

西遊記壁画は嶺南地域だけで製作され、一八世紀に集中的に描かれた。したがって、同じ時期と地域で製作された西遊記壁画は、これを主導した画僧集団があったはずであり、彼らと交流した画僧によって製作されたはずだ。

一九世紀になると、「神衆図」と「三蔵菩薩図」に「西遊記」の登場人物であり文臣である尉遲敬徳と陳叔宝、そして魏徴が描かれる。文臣は道教の神で門を守る守護神だ。中国では彼らを描いた門背図を門に付けて悪鬼を追う信仰があり、これは朝鮮後期にも確認される。このような文臣が神衆として描かれたのは、彼らが仏教に習合されて仏法を守護する役割を持つようになり、家庭の安寧と起伏の意味で財神の性格も現れるためだ。

西天佛說八萬大藏經目錄

涅槃經一部四十八卷在唐菩薩經一部二十二卷在唐
虛空藏經一部二十卷在唐思議藏經一部五十六卷在唐
經一部一百一十卷在唐決定經一部一百四十卷在唐寶藏經一部一百一十卷在唐
善嚴經一部三十三卷在唐本末真經一部九十卷在唐
大般若經一部六百卷在唐金光明經一部二十卷在唐末身有經
一百一十五卷在唐維摩經一部二十七卷在唐論別經一部二十七卷在唐
金剛經一部一卷在唐正法論經一部百一十卷在唐法華經一部
一百卷在唐佛本行經一部十八卷在唐五龍經一部三十一卷在唐

菩薩戒經一部一百卷在唐大集經一部三十三卷在唐西天論經
三百卷在唐僧祇經一部五百七十七卷在唐西天佛國雜經九十三卷在唐
起信論經一部二十五卷在唐大智度論經一部五十卷在唐維摩
藏經一部四十五卷在唐大開經一部八十卷在唐律文經
二十卷在唐因明論經一部五十五卷在唐唯識論經一部十卷在唐
具舍論經一部二十卷在唐甲章經遺教經彌陀經圖
覺經梵網經地藏經十王經目連經高王經百鍊經
月藏經西天大藏經總計四億萬四百卷內三千八百二十
唐僧往西天取來此目經若人五百如見大藏經一件功德無量諸

自中夏至西天國九萬八千里 西天僧寺三百四十
萬九千三百三十所 尼寺二十五萬八千所 道觀一百
五萬三百三十所 館譯一百三十萬九千三百三十所
舍利塔名 南京開寶塔 金陵長安塔 沙州
白馬塔 涼州姑洗塔 甘州萬華塔 魏州歸善塔
阿育王所造八萬四千塔 自藏目錄至靈塔板木三在平
安道妙香山上院庵而今重刊也

1881年刊行『日用集』所収『西天仏説八萬大藏經目録』
(ソウル大学奎章閣韓國学研究院所蔵)

このように寺院建築に『西遊記』がモチーフとして描かれるほど、それは民衆に知られていた。ここから『西天仏説八万大蔵経目録』寺院に受け入れられたと考えられる。

七 結語

以上、本稿では朝鮮伝承の偽経『西天仏説八万大蔵経目録』を検討した。この経典は、題目を見るだけの功德が説かれ、他の現世利益の経典類とは異なる特徴があった。さらに経典に本来数と在唐数とを分かち、現実に伝わるのはごく一部であるという形で経典を神秘化させているところもめずらしいものであった。

その来歴を調査したところ、『西遊記』に収録された三五種の経典がまずあり、これをもとに一六世紀以前に原本『西天経』が中国で作られ、それがさらに朝鮮に伝承されたと考察したが、具体的に改変が行われた部分についてはわからないが、少なくとも題目にある「八万大蔵経」朝鮮において付されたものと考えられる。

偽経は、一般にその目的が現世利益であることから、いわゆる仏教思想を中心とした仏教学の立場からは検討の対象とはされにくい。しかし、本書で見たような背景を考察することにより、その文化的な価値というものを認めることができるのではないかと考える。

＜キーワード＞

偽経、西天仏説八万大蔵経目録、西遊記、朝鮮、大蔵経

註

- (1) ソウル大学校奎章閣『奎章閣韓国本圖書解題 続集・経・子部』二（民昌文化社、二〇〇一年）五三五頁―五三六頁
- (2) 『少室山房筆叢』巻四七
- (3) 磯部彰『旅行く孫悟空…東アジアの西遊記』（塙書房、二〇一一年）「V ハンガンを渡った孫悟空」
- (4) チェ・ペク『朝鮮後期寺院殿閣に見える西遊記圖像研究』（東亜大学校修士論文、二〇二一年）